

チャオチャオ陸前高田道中おどり

議会として今年も参加



本市議会は7月18日、昨年に続き今年もチャオチャオ陸前高田道中おどりに参加しました。及川修一議長を先頭に陸前高田市議会の横断幕を掲げ、「チャオチャオ陸前高田」や「高田音頭」などの曲に合わせて踊り歩きました。

この催しは、高田町市街地のほんまる公園通りを会場に行われており、毎年市内の各地区や地元企業など各種団体が参加しています。東日本大震災で中断していましたが、令和6年から再開しました。

今年は国際交流協会を通じた参加者も多く、大いに賑わいました。市内の地域ごとの参加も見られ、チャオチャオの復活が各コミュニティの結束に大切な役割を果たしている様子が伝わりました。

本市議会としても、本来の議員活動のほか、このような催しに積極的に参加し、市民に親しまれる活動を展開していきたいと考えています。また、10月24日と25日に行われる本市産業まつりにも参加予定です。

教育民生常任委員会研修会

こどものウェルビーイング 向上について学ぶ



講師の本図愛実氏

教育民生常任委員会は、令和7年9月から令和9年8月までの今期の調査テーマを「こどものウェルビーイング向上について」と定め、調査・研究を進めています。その一環として8月10日、宮城教育大学の本図愛実教授を講師に招き、研修会を開催しました。

ウェルビーイングとは、身体的・精神的・社会的に良い状態にあり、充実した生活を送ることができる状態を指す考えです。国のこども大綱でも、すべてのこども・若者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができ、「こどもまんなか社会」の実現

を目指しています。

研修では、こどものウェルビーイングが必要とされてきた社会的背景やこどもの状態を把握するためのデータの活用、ICTを活用した支援などについて学びました。本図教授は「こどものウェルビーイングの向上には、こどもたちが意見をもち、主体的に学習できる環境の整備が重要」と強調し、全国でこどもの主体性を育む教育の実施事例を紹介しました。

こどもたちのライフスタイルが多様化し、SNSによるトラブルに代表されるような新たな課題をはじめ、複合的なウェルビーイングの阻害要因が生じていることから、教育だけでなく福祉、医療、地域社会など、さまざまな分野が連携してこどもを支えていくことが重要であると改めて認識する研修会となりました。



委員外の議員や市教育委員会職員も参加

教育民生常任委員会では、この研修会で学んだ内容をもとに、こどもが主体的に地域や社会に関わることでできる環境づくりについて、さらなる調査・研究に取り組み、新たな提言につなげていきたいと考えています。

奥州・大船渡・陸前高田市議会議員研修会

3市議会で本市防災学ば



講演する中村局長

奥州市、大船渡市、本市の3市議会による議員研修会は8月18日、本市コミュニティホールで開催しました。「デジタル技術とAIを活用した新しい災害情報伝達手段の必要性」と題し、本市防災局の中村吉雄局長がシン・オートコールシステムについて講演しました。

シン・オートコールは有事の際、あらかじめ登録した住民に自動で電話を掛け、AIを活用した音声認識により、避難の状況や安否情報等の返答を文字化して集約するシステム。

中村局長は、これまでは災害時に防災行政無線を使って市民に情報を伝えてきたが、放送内容が聞き取れないなどの課題があり、電話による伝達の手法を思い付いたことなどの開発経緯を説明。オートコールにより市職員の省力化と導入コストの低廉化を実現したことを強調しました。

その一方で、一般の電話回線を利用するので、発信制限などが生じればシステムが利用できなかったり、1秒間に発信できる回線数が4回線のため、登録者が増えることにより時間差が発生するといった課題があることを指摘しました。

他市議会の議員からは「本市でも導入に向けて検討すべき」といった声があがっていました。